

教育学部

I	教育水準	教育 20-2
II	質の向上度	教育 20-4

I 教育水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 教育の実施体制

期待される水準にある

[判断理由]

「基本的組織の編成」については、前期課程教育（教養教育）に責任を担う教養学部から3年生次で進学してくる当該学部では、1学科6コースを設置して教育学的教養を養成する目的に即してそれぞれの特徴に応じた教育を行っていること、教員は教育によって個別指導を行うのに適切な人数であるなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「教育内容、教育方法の改善に向けて取り組む体制」については、学部の自己評価委員会を設定して「教育学研究科・教育学部年報」を発行しているのははじめ、コースの再編、学生による授業評価の導入には、フィードバックが必ずしも十分とはいえない側面があるものの、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動に役立てているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育の実施体制は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

2. 教育内容

期待される水準にある

[判断理由]

「教育課程の編成」については、進学振り分けによる教育学部進学予定者に入門的専門教育を実施し後期課程への円滑な移行を図っていること、卒業論文・必修科目・選択科目の履修や他コース・学部授業科目の履修が可能な教育課程編成を行っていること、専門科目の概論によって習得した各専門分野の上に多彩な内容の授業科目を開設しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「学生や社会からの要請への対応」については、各種資格取得可能な科目を開設していること、社会調査士の資格取得を可能にしたこと、教育職員免許状取得のための科目開講を行って学生のニーズへの対応や社会からの要請に対応しているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育内

容は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

3. 教育方法

期待される水準にある

[判断理由]

「授業形態の組合せと学習指導法の工夫」については、講義（科目数の全体に占める割合は 55%）ばかりではなく、演習（同 40%）・実習（同 5%）等学生参加型の授業を多く開講して実践的な能力の育成を企図していること、講義前の十分な予習を行った上で意見の発言を求めることを重視すること、少人数教育を行っていること、演習を中心にティーチング・アシスタント（TA）を配置していること、シラバスの講義計画と内容を学生に配布しているなどの相応な取組を行っていることから、期待される水準にあると判断される。

「主体的な学習を促す取組」については、必修科目を 32 単位に抑え、学生が主体的に受講スケジュールを組むように企図していること、幅広い知識を身につける可能性を高めていること、必修である卒業論文の執筆能力を養成する配慮を行っていること、教員が適切な助言を行っていること、さらに評価の厳格化を図っているなどの優れた取組を行っていることから、期待される水準を上回ると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育方法は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

4. 学業の成果

期待される水準にある

[判断理由]

「学生が身に付けた学力や資質・能力」については、多くの学生が卒業まで所定の 76 単位以上の単位を取得しているが、進学後 2 年で卒業する者は 71%にとどまっていること、一方、学生の自主的な学術プロジェクトの質が高いこと等の相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

「学業の成果に関する学生の評価」については、アンケートによれば学生の 82%が授業の準備・計画を評価していること、法人化以後学生からの評価は向上しているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の

成果は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

5. 進路・就職の状況

期待される水準にある

[判断理由]

「卒業（修了）後の進路の状況」については、最近では大学院進学が漸減し、一方就職が漸増していること、就職先は多岐にわたっていること、教育学的教養を育成して多様な人材を育成するという学部の教育目的がかなり実現されているなどの優れた成果があることから、期待される水準を上回ると判断される。

「関係者からの評価」については、マスコミの就職力なる指標では全国一と評価されているなどの相応な成果があることから、期待される水準にあると判断される。

以上の点について、教育学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、進路・就職の状況は、教育学部が想定している関係者の「期待される水準にある」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

相応に改善、向上している

当該組織から示された事例は3件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」または「相応に改善、向上している」と判断された。